

Ex 1603-A

5099-1

ロバート・デイヴィッド・バック (香港)

私、英國陸軍憲兵部、正規軍將校、本籍地サアレ
イ州ウォーリントン・オン・スローガーテンズ百十一
番地、陸軍少佐ロバート・デイヴィッド・バック、
ハ以下宣誓口述スル。

私ハ、一九四一年十二月二十五日、日本軍ニヨ
ツテ香港デ捕ヘラレタ。ソシテ香港島カラシヤム
サイボトシテ知ラレル香港海岸ノ牛島ノ西側ニ在
カ收容所ヘ送レテ行カレタ。私ハシヤムサイボニ
一九四一年十二月三十日カラ一九四五八年八月マテ
置ツタ。

一九四二年四月十八日ニ拘三百名ノ船使ガシヤ
ムサイボ收容所カラアルギイル荷收容所トシテ知
ラレテキル牛島ノ船ノ倒ノ收容所ヘシサレタ。
拘四十名ノ船使ガシヤムサイボニ置ツタ。アルギ
イル荷ハ「エヌ」收容所トシテ知ラレ船使用ア
リ、シヤムサイボ收容所ハ、コツタ四十名ノ船使
ハ別トシテ、船ノ階級者ノ收容所アツタ。

一九四四年五月一日ニアルギイル荷收容所ハ置

退シ、其處ノ將校ハシヤムスイボヘ戻サレタ。次
處テハ、將校達ハ他ノ階級ノ者達ト分離サレテ居
タガ、シヤムスイボニ居ル間、將校達ハ其ノ身分
ト「エヌ」駁容所ト云フ駁容所名ヲ依然トシテ置
ケテキタノテ、(他ノ階級ノ者達ノ)「エス」駁容
所ト(將校達ノ)「エヌ」駁容所トハシヤムスイボニ
在ツタノジガ分離サレ區別サレテキタ。

× × ×

一九四二年七月、シヤムスイボノ隨連ノ全団ハ
日本軍ニヨリ撃見サレタ。墻クシテ、約八名ノ英國
ノ下士官兵ガ日本軍ニヨリ活動サセラレタ。這
レ去ラレタ者ノ中四名以外ハ全員戻ツテ來タ。這
レ去ラレタ者全員ガ憲兵隊ニヨリ訊問サレ、彼
處待サレタト云フ事ヲ聞イタ。私ハ戻ラナカツタ
ソノ四名ニ聞シテハ、一九四五八年八月ニ、私ガ之
等四名ガ疏忽サレタモノトシテ右前ガ最ツテキル
日本軍ノ作ツタ疑フ見ルマテ、何事モ聞知ナカツ
タ。併ノ四名ノ下士官兵ハ次ノ旨アツタ、

第六二〇一一一七 ミドウルセツクス駆隊、海賊兵伍バーン

第六二〇一七六七 全 兵 ブランソン

第六二〇〇七九一 英國陸軍長驅隊 兵 テューン

第六二〇八三二一 全 兵 ストッブフォース

× × ×

5099-3

一九四二年十月ニ、鑑君カノ金ガ停戻意図ノタ
メロ！マ法皇ニヨリ肩立テラレタコトヲ日本
駐カラ知ラサレタ。私ハ此ノ金ヲ使用スル項目ノ
表ヲ作ルコトヲ要求サレタ。私ハ衛病兵用ノ良品
食糧ヲ含メタ一表ヲ作成シタ。約一ヶ月后此ノ候
客所ノロリマ・カトリック教ノ院附牧師イ・
デエ・グリーン師、此ノ方ハサリト出ウオリン
トン、マテモント臨三十六「クランフォード」
ニ居ルト恩フガ、其ノ方ガ所長ノ城野（原名不詳）
中尉ニ、要求シタ物品ノ文翰ヲハカドラス誠ニト
手紙ヲ出シタ。師ハ所長ノ所ヘ連レテ行カレタ、
ソシテ手紙ノ主旨ヲ説明シテ戻サレタ。十分許リ
シテグリーン師ハ所長室ニ呼バレタ。其處テ彼
ハ倉庫宣賣ト井上通譯ノ兩人ニヨリ手テヒドク聞
ラレタ。城野中尉ハ居ナカツタ。私ハ殴打サレタ
后宣賣ニグリーン師ヲ見タガ彼ハ誤常ニヒドク
打タレテ居ツタ。彼ハ其ノ後同モナク城野ヘ連レ
テ行カレタガ、私ハコノ虐待ガ彼ノ全停因病中
彼ノ健康ニ惡イ影響ヲ及ハタト、彼ノ多クノ人々
ト共ニ居ハタ。

× × × × ×

時後期ガアルギル海ヘ出港シテ后回モテク、
或ル英國陸軍兵器にて停泊中ノ艦ノ損害者達ハ日
本軍ニヨリ　スタンレイテ砲ノ修理ニ便ヘレタ。
私ハ恩ビ切ツテ萬田（辰吉不詳）連隊ニ坑設シテ
ミタガ、脚足ハ右ラレヲカツタ。一九四二年ノ終
リ頃、シャムスイボカラノ停泊工作隊ハ　カイタ
ツク飛行場ノ近張ニ就役シタ。英國陸兵はノ中尉
イー・エイチ・フィールドト云フ八ガ流體シタ。
彼ハ澤永六佐ノ副官ノ前ニ通ヒテ行カレ、彼ノ手
テヒドク河タレタ。